

2021年4月8日

報道関係各位

東京建物株式会社

Hotel Properties Limited

Four Seasons Hotels & Resorts

日本初*「Four Seasons Hotel」と プライベートレジデンス「Brillia」が一体となった超高層複合タワー開発

東京建物・HPL・Four Seasons Hotelが初のパートナーシップ
“旅とアート”がコンセプトの「ONE DOJIMA PROJECT」2021年4月8日始動

※「Four Seasons Hotel」が入る分譲住宅との超高層複合タワー開発は日本初となります。超高層タワーとは、高さ約60m(約20階建て相当)以上の建物を指します。フォーシーズンズ・ホテルズ及び当社調べ(2021年3月末時点)

東京建物株式会社(本社:東京都中央区、代表取締役 社長執行役員:野村 均、以下「東京建物」と)と Hotel Properties Limited(本社:シンガポール、最高責任者:Ong Beng Seng(オン・ベン・セン)、以下「HPL」)の2社は、共同で2021年4月8日より「ONE DOJIMA PROJECT」を始動します。また、合わせて「ONE DOJIMA PROJECT」内に Four Seasons Hotels & Resorts(本社:カナダ、創業者兼会長:Isadore Sharp(イサドア・シャープ))が運営する世界有数のラグジュアリーホテルブランドである「Four Seasons Hotel」が大阪市内に初進出することが決定しましたのでお知らせいたします。

「ONE DOJIMA PROJECT」は、東京建物とHPLが共同で開発を推進する住宅とホテルを中心とした関西圏でも大規模な再開発プロジェクトです。本プロジェクトは、2020年8月1日に着工しております。

建物は高さ約195m(49階建て)、延床面積は約8.2万㎡と大阪市内でも有数の規模を誇ります。“旅とアート”をコンセプトに、国際水準の機能を備えた住宅と、トップクリエイターのデザインによるスパリートメントやジムを備えたスパや、多様なシーンで利用可能なレストラン、カフェやバー、観光やビジネスの拠点となるバンケットなどを備えた世界有数のラグジュアリーホテル Four Seasons Hotel との超高層複合タワーです。

また、本プロジェクトは、大阪で初めて「宿泊施設の整備に着目した容積率緩和制度」の適用による、大阪市による特定街区の都市計画決定を受けた開発です。アフターコロナを見据え、大きな注目が集まる2025年に向けて、ますます発展する大阪の国際競争力強化に寄与し、大阪のシンボルとなる開発を実現します。



外観イメージ(南東側)



上:建物上部外観イメージ 下:内観イメージ(住宅共用部)

■「ONE DOJIMA PROJECT」の主な特徴

日本で最も歴史ある総合不動産会社・東京建物と、世界的ホテルデベロッパー・HPLによる初の共同事業

東京建物は、1896年に設立され、分譲住宅シリーズ「Brillia」やオフィスビルを中心に事業を展開してきました。一方 HPL は、1980年に設立され、シンガポールの総合不動産企業として世界 15 개국でホテル、リゾート、ショッピングギャラリーを所有・展開しており、日本で大規模な事業を展開するのは今回が初めてとなります。

東京建物の 120 年以上の歴史を通じて積み上げてきた、まちづくりや住宅における開発実績と HPL のホテル開発実績により、ラグジュアリーホテルブランドである Four Seasons Hotel を大阪市内に初めて誘致します。

【Hotel Properties Limited マネージング・ディレクター オン・ベン・セン氏のコメント】

この注目度の高い「ONE DOJIMA PROJECT」開発において、日本の大手不動産会社である東京建物と提携できたことを嬉しく思います。東京建物のブランド、強み、ネットワークを活用しながら、ホテル運営会社として世界的に有名な Four Seasons Hotels & Resorts と共に、世界的にも注目度の高い大阪を象徴するような、複合開発のランドマークを作ることを楽しみにしています。



文化・ビジネスの街、“堂島”に新たに生まれる「旅とアート」をコンセプトとした超高層複合タワー開発

堂島は、水の都と呼ばれた大阪の中でも特に水との関りが深いエリアで、世界初の先物取引所であり、日本における取引所の起源とされる「堂島米会所」の開設を機に、商業の中心地として発展し、現在では大阪のビジネスの中心となっています。また、近接する中之島はギャラリーが多く存在し、2022年には大阪中之島美術館もオープンするなど、芸術の街として栄えています。さらに、大阪の交通の中心地である梅田へも容易にアクセスが可能です。

本プロジェクトは、世界を旅する人々の憩いの場、芸術に触れる場として「旅とアート」をコンセプトに、ここでしか体験できない空間と時間を提供します。アート監修には南條史生氏を起用し、同氏のキュレーションにより世界的トップアーティストが多数参画しています。ラグジュアリーホテル Four Seasons Hotel とプライベートレジデンス「Brillia」が一体となった超高層複合タワーの開発を通じて、訪れる人々による梅田・中之島それぞれのエリアへの回遊を生み出し、堂島・梅田・中之島エリアの活性化を目指します。

大阪市内に初進出となる世界有数のラグジュアリーホテルブランド、Four Seasons Hotelの誘致

これまで、数多くの賓客に洗練されたサービスと温かいおもてなしを提供し、国際的に高い評価を受けるホテルを世界中で展開するラグジュアリーホテルブランド「Four Seasons Hotel」を、大阪市内で初めて誘致します。世界的デザイナーの共演により生みだされる本ホテルは、グローバル都市としてますます発展する大阪の新たなシンボルとなると共に、都市の喧騒を忘れさせてくれる非日常の世界が、ゲストを迎え入れます。178 室の客室は、洗練されたデザインと開放感のある広さを誇り、ホスピタリティにあふれるホテルスタッフによる最高水準のおもてなしとともに、世界中からのゲストにくつろぎの時間を提供します。

【Four Seasons Hotels & Resorts 社長兼 CEO ジョン・デイヴィンソン氏のコメント】

かねてからのパートナーである HPL と、今回初めてタッグを組む東京建物と共に、大阪に新たにラグジュアリーホテルを開発する計画である「ONE DOJIMA PROJECT」の一員となることを誇りに思います。近く開業するフォーシーズンズホテル大阪では、日本人デザイナーによる美しい雰囲気と、日本のみならず世界的に有名な最高級のフォーシーズンズのサービスをお楽しみいただけます。



<参画する3名のホテルデザイナーについて>

【Gwenael Nicolas(グエナエル・ニコラ)】インテリアデザイナー

1998年 キュリオシティ設立。テクスチャミニマリズムと呼ばれるデザインが特徴的。一見ミニマルに見えるデザインは、人の動きを踏まえたレイアウトであると共に、近づくほどにオリジナルの素材やテクスチャの深さを感じさせる。こうしたアプローチが評価を受け、国際的なファッションブランドを多数クライアントに持つ一方、近年ホテルデザインも手がける。受賞歴は FRAME Award、Prix Versailles、Interior Design Award など多数。



【緒方 慎一郎】インテリアデザイナー

1998年、SIMPLICITY 設立。「現代における日本の文化創造」をコンセプトに、和菓子店、和食料理店、プロダクトブランドを展開。自社ブランドのみならず、建築、インテリア、プロダクト、グラフィックなど多岐にわたるプロジェクトのデザインやディレクションを手掛ける。



【小市 泰弘】インテリアデザイナー

1999年4月に株式会社デザインスタジオ・スピンを設立。“ラグジュアリー空間のスペシャリスト”として、国内外の高級ホテル、星付きレストラン、バーやラウンジなどをメインに様々なラグジュアリーシーンを演出しそのデザインを手掛けている。



超一流の才能が集結し生み出される、全く新しい最高級のタワーレジデンス「Brillia Tower 堂島」

高さ約 195m・地上 49 階・総戸数 466 戸を誇る、建物自体をアート作品と捉えたタワーレジデンスです。JR 大阪駅から徒歩 9 分の立地というロケーションに、多様な住宅ニーズに応えるべく、専有面積は 30 m²台～最大 230 m²台、天井高は約 2.7m～最高約 4.0mとゆとりの空間を実現します。

また、2 階と 43 階には、コンシェルジュを配置し、さらに、エントランス部分に警備員が常駐することで、安心の 24 時間有人管理サービスを提供します。

最上階には、居住者全員がご利用可能なラウンジ・パーティールームをはじめとした豊富な共用施設を完備するなど、国内トップクラスのレジデンスにふさわしいホスピタリティの実現を目指します。

共用空間のインテリアデザインは、日本初進出のオランダのデザイナー、Piet Boon(ピエト・ブーン)氏がコーディネートし、インターナショナルなホスピタリティとエレガントなエッセンスを演出します。またアート監修には、日本を代表するキュレーター 兼 美術評論家、そして森美術館前館長である南條史生氏を起用し、約 50 点を超えるアート作品を共用部各所に設置します。

建物の全体設計には日本を代表する設計事務所である日建設計を起用し、同社チーフデザインオフィサーである大谷氏の手による「帆」をイメージさせる優美なデザインを具現化します。また、かつてこの地に本社を構えた 竹中工務店が施工を行い、各国の超一流の才能が集結された、全く新しい最高級のタワーレジデンスを目指します。

【南條 史生】アート監修

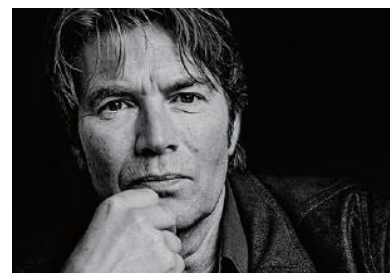
慶應義塾大学経済学部、文学部哲学科美学美術史学専攻にて学位取得後、1978年国際交流基金、1986年ICA ナゴヤ ディレクター等を経て、2002年森美術館開設に関わる。

2006年同館館長、2020年より同館特別顧問。国際的には、1997年ベニス・ビエンナーレ、2001年横浜トリエンナーレ、2006年シンガポール・ビエンナーレ、2016年茨城県北芸術祭、2017年ホノルル・ビエンナーレ等の初代ディレクターを歴任。



【Piet Boon(ピエト・ブーン)】インテリアデザイナー

オランダ生まれのデザイナー。そのものづくりや天然素材への情熱、インスピレーションは育ってきた母国や家族環境の中で培った伝統に基づく創造と彼自身の挑戦的な精神によるものである。建築請負業者としてキャリアをスタートさせた後、建設会社を総合的なデザインスタジオに発展させ、Studio Piet Boon はグローバルに事業を展開するデザイン企業へと成長。住宅や企業に優れたエクステリア、インテリア、製品デザインを提供している。



【大谷 弘明】 チーフデザインオフィサー

株式会社日建設計 チーフデザインオフィサー 常務執行役員。1986 年日建設計入社。専門は建築意匠設計。日本文化に対する関心が深く、国内のみならずその固有の文化的側面を反映した建築を多く設計。手がけた設計は「宮内庁正倉院事務所」「積層の家」や多数の高級ホテルなど多岐にわたる。文化施設、ホテル、商業施設、教育施設など、幅広い分野の建築に多くの受賞実績がある。一級建築士、日本建築家協会会員、同協会登録建築家、日本建築学会会員、神戸大学客員教授。



【竹中工務店】 建物施工

創業 400 年を超える歴史を持ち、「最良の作品を世に遺し、社会に貢献する」を経営理念とする大手ゼネコンである竹中工務店。今日では世界中で様々な大規模プロジェクトを手掛ける竹中工務店はかつて、本プロジェクトを建設中のこの地に本社を構えた歴史をもつ。同社の成長の拠点となった思い入れの深い場所であるこの地で、時代を越えて、大阪の人々に永く親しまれる建物の完成を目指す。



以上

■ ONE DOJIMA PROJECT 物件概要 ※計画は現段階のものであり、今後変更となる可能性があります。

所在地	大阪府大阪市北区堂島2丁目17-5
敷地面積	約4,828㎡
延床面積	約82,566㎡
構造・規模	RC造、地上49階・地下1階
施設構成	住宅フロア:1階～27階、38階～49階、総戸数:466戸 ホテルフロア:1階～2階、28階～37階 客室数:178室
工期	着工2020年、竣工2024年(予定)

■位置図

